

担当 中田 喜万

[講義：毎週金曜2時限]

2024年1月26日(金) 第2時限 実施

中央棟 403 教室にて

※B4用紙1枚両面に自筆で記入したメモだけ持ち込み可。

手書きを(縮小)コピーしたものも、自筆で記入したメモとみなす。

そのメモは試験後に回収する。自分の名前・学籍番号を明記しておくこと。

なお海外からの留学生には、持ち込みについて特別に配慮することがある。

※下記の問題すべてに解答すること。問題順どおりに答えなくてもよいが、どの問題に対応する解答かを明示すること。

※所定の答案用紙(罫線入り)に、読みやすい文字で記入すること。

解答の文字が薄くならないように注意すること。

答案用紙が不足したら申し出ること。

## 【 問 題 】

第一問 次の文章を読んで、空欄(ア)～(ニ)にあてはまる語を記しなさい。

江戸時代に「神宮」といえば、通常  神宮(いわゆるお  さん)のことを指した。正確にいうと、その他に関東に鹿島神宮と香取神宮(両社とも武神を祀る)があり、この三社だけが「神宮」と称した。

神宮は内宮(皇大神宮)と外宮(豊受大神宮)とから成り、内宮の祭神が、皇族の祖先神とされた  である。古代672年の  の乱のとき、大海人皇子が吉野から伊賀を経て  にたどり着き、戦勝を祈願したという。政権を奪取したのち天武・持統朝が  神宮を整備したことが、後世の歴史につながる。二十年に一度、社殿を完全に建て替える、 という慣行もこの頃に始まったとい

う。

天武・持統朝は、「大王」の権威を高めるために様々な改革を行った。即位した最初の年に収穫された新穀などを神に供えて感謝の奉告を行い、神からの賜りものとして自らも食する儀式を  という。「大王」が神と通じた存在であると表現する一世一代の儀礼である。この  の儀礼も実は  神宮と深く結びついている。これも天武・持統朝において整備されたものであった。今上天皇の令和度の  の際も、その実妹の神宮祭主らが  神宮で「 当日祭」を執り行った。

三種の神器の一つ「八咫鏡（やたのかがみ）」も、 神宮に安置されているという。 が宿る依り代であるとされる。しかし記録のある限り誰も本物を見たことがない。しかも、宮中三殿の一つ  には、「八咫鏡」の写しに相当するものが安置されていて、やはり  を祀っているらしい。

ところで、三種の神器のもう一つ「草薙剣（くさなぎのつるぎ）」の本物は、 神宮に安置されているという。 神宮は、元来「神社」と称していたものを、明治元年に改称したのであった。 神宮も  神宮も本物の神器を保持していることから、後に昭和の世にアジア太平洋戦争で敗色が濃厚になると、天皇は、敵の侵攻で神器を奪われてしまうことを恐れた。もしそんな事態になれば「 護持」が難しい、だから講和するというのであった（『昭和天皇独白録』）。

「神宮」は近代国家の下で増殖し始める。

明治 23 年（＝西暦  年）の「皇紀 2550 年」を記念して、飛鳥の畝傍山麓に推定された  天皇陵が再整備され、近くに橿原神宮が創建された。旧京都御所の内にあった （内侍所）を移築して本殿とし、また同じく神嘉殿を移築して拝殿とした。なお、 天皇は歴史上、架空の人物と考えられるのに、その陵があるのは、江戸時代の末期、 二年頃、諸説あるうちの 하나가採用され、徳川政府の事業として整備されたからである。

ところで明治 23 年は、立憲政体が確立する傍ら、議会の開設に先だって  が発布されるなど、守旧派の動きも活発であった。 の謄本が各学校に頒布され、その奉読式が挙行された際に、いわゆる  不敬事件がおこり、たちまち学校の現場が政治問題化してしまった。

明治 28 年、 京遷都千百年記念の内国勸業博覧会のパビリオンとして、大内裏の朝堂院が約 8 分の 5 の規模で再現された。正殿である  殿や、正門である応天門などである。それが  神宮となった。祭神は、 京に遷都したときの  天皇とされた。のち皇紀 2600 年に、幕末の孝明天皇が合祀された。

明治天皇が崩御すると、その遺徳をしのぶという趣旨で、大正 9 年、明治神宮が創建さ

れる。明治天皇と、その皇后であった [ (チ) ] 皇太后を祭神とした。代々木の農地や荒地だったような場所を鎮守の杜に演出するため、将来最終的に原生林に近づくように、約 10 万本もの木々が巧妙に植樹された（つまり人工林）。

あわせて国民の寄付を募り、青山練兵場だったところに明治神宮外苑が整備される。外苑の中心となる施設は、明治時代を視覚的に回顧できる聖徳記念 [ (ツ) ] 館である（建物の竣工は大正 15 年であるが、全 80 面の [ (ツ) ] が揃ったのは 10 年後の昭和 11 年）。都心の景観として有名な銀杏並木もこの際に整備されて今日に至る（なお人工的な街路樹であるから、常に手を加え続けなければならない）。それとともに、スポーツの場としても競技場や野球場が建設されて、国民に親しまれることになった。大正 13 年 10 月に第 1 回が開催された明治神宮競技大会は、第 3 回から明治神宮 [ (テ) ] 大会、第 10 回から明治神宮国民 [ (テ) ] 大会と称され、最後は明治神宮国民錬成大会とされたものの、戦後の国民 [ (テ) ] 大会に引き継がれる。明治神宮外苑競技場は、戦後昭和 33 年に建て替えられて国立競技場となる。昭和 39 年（＝西暦 [ (ト) ] 年）の 1 度目の東京オリンピックのメインスタジアムとして華々しく使用されたことは有名である。しかし、その 21 年前に同じ空間で、出陣 [ (ナ) ] 壮行会が行われたことも忘れるわけにかかない。

やがて大日本帝国の国土の膨張にともなって、「神宮」も海外に進出する。大正 14 年には、京城（現在の [ (ニ) ] ）の南山に、朝鮮神宮が創建された。祭神は [ (イ) ] と明治天皇であった。その造営のため、南山にあった朝鮮王朝の太祖などを祀る「国師堂」は移転された。日中戦争の勃発以降、朝鮮総督府は植民地朝鮮の統合手段として神社政策を積極的に展開し、「国民儀礼」として朝鮮人にも神社参拝を強要するようになる。

第二問 次に掲げる、慶応三年十二月九日のいわゆる「王政復古の大号令」（引用のために改変）について、下記の設問に答えなさい。なお、空欄 (コ) は第一問と共通する。

徳川内府 (a)、従前御 [ (1) ] の大政返上、 [ (2) ] 職辞退の両条、今般断然 聞こしめされ候。そもそも癸丑 (b) 以来未曾有の国難、先帝 (c) 頻年 宸襟を悩ませられ候御次第、衆庶の知る所に候。之に依って 叡慮 (d) を決せられ、王政復古、 [ (3) ] の御基を立てさせられ候間、今より [ (4) ] ・幕府等廃絶し、即ち今先づ仮りに [ (5) ] ・議定・ [ (6) ] の三職を置かれ、万機行はせらるべく、諸事 [ (コ) ] 創業の始めに原づき (e)、縉紳 [=公卿] ・武弁 [=武家]、堂上・ [ (7) ] の別なく、至当の [ (8) ] をつくし、天下と休戚を同じく遊

ばさるべき 叡慮 (d) に付き、各勉励、旧来驕惰の汚習を洗ひ、尽忠報国の誠を以て奉公致すべく候事。(後略)

[ 設 問 ]

- ・空欄 (1) ～ (8) にあてはまる語を記しなさい。
- ・下線部 (a) の「徳川内府」とは誰のことか。
- ・下線部 (b) の「癸丑」とは嘉永六年 (1853 年) のことである。どんな出来事があった年か。
- ・下線部 (c) の「先帝」とは誰のことか。
- ・下線部 (d) の「叡慮」とは誰の意思のことか。
- ・下線部 (e) の「諸事 (コ) 創業の始めに原づき」とは實際上、何を意味するか。
- ・(f) 上掲の史料にみられる、「王政復古」「(3)」「(8) 輿論」という、明治維新を導き出した三大理念の、その相互関係と政策的含意について簡潔に論述しなさい。

第三問 江戸時代の知識人からすると、キリスト教はどのようにみえたか、論じなさい。  
その際、金地院崇伝や、新井白石の思想をとりあげること。

第四問 有史以前から日本列島の主な地域に「神社」に相当するものが多数存在し、信仰されてきたと考えられるが、

- (α) それは必ずしも「日本的」だったとはいえない。
- (β) それは明確な教義の体系を有しておらず、「神道」という語それ自体を含めて、教義の多くが他の宗教思想からの借用または共用であった。
- (γ) それらの教義や儀礼を近代国家において統一しようとしたものの、主流派の他にいくつもの教派が分立することになった。

この (α) (β) (γ) について、具体例をまじえながら述べなさい。

以 上

## 【 解 説 】

### 第一問

- (ア) 伊勢 (イ) 天照大(御)神 (ウ) 壬申 (エ) 式年遷宮 (オ) 大嘗祭  
(カ) 賢所 (キ) 熱田 (ク) 国体 (ケ) 1890 (コ) 神武 (サ) 文久  
(シ) 教育勅語 (ス) 内村鑑三 (セ) 平安 (ソ) 大極 (タ) 桓武 (チ) 昭憲  
(ツ) 絵画 (テ) 体育 (ト) 1964 (ナ) 学徒 (ニ) ソウル

### 第二問

- (1) 委任 (2) 将軍 (3) 国威挽回 (4) 撰関 (5) 総裁 (6) 参与  
(7) 地下 (8) 公議

- (a) 徳川慶喜 (b) 黒船来航 (c) 孝明天皇 (d) 明治天皇

(e) 神武天皇に関する具体的な史実はほぼ皆無なので、實際上、明治新政府が自由に解釈・提案できること。

(f) 西洋列強の接近に対抗し、国家の独立を維持する(「国威挽回」)ためには、最新鋭の兵器を調達し、何より海軍を新設しなければならなかったが、その軍備拡張には膨大な費用がかかり、既存の体制では困難だった。新たな産業を振興し、財政基盤を確立する必要があった。つまり「富国強兵」で、社会のさまざまな分野で改革しなければならない。

このためには優れた意見を採用して衆智を結集する必要がある(「公議輿論」)。同様に、身分を問わず優れた人材を登用する必要がある。議会制度をはじめとして、政治・行政の新しい仕組みが求められる(つとに徳川慶喜の構想にあった)。学校制度の整備もそれに対応する。しかし、この改革を推進しようとするれば、どうしても既存の徳川政権と諸大名の秩序と矛盾・軋轢が生じてしまう。

その矛盾・軋轢を一挙に覆し、中央集権国家を建設する鍵となるのが、時代錯誤の「王政復古」であった。御簾の奥から担ぎだされた天皇の前では、武士も百姓も「四民平等」のはずで、武家の私領を認めず、版籍奉還・廃藩置県をすみやかに実現できた、他方、天皇の権威づけを補強するため、古代国家的な「祭政一致」の演出も期待され、そのため国家神道の構築が試みられることになる。

### 第三問・第四問

講義内容を参照して自由に論述。

以上